



# 小児がん中央機関からの報告

連携病院QIを中心として

国立成育医療研究センター 松本公一

小児がん拠点病院連絡協議会

2021.6.22

# 小児がん連携病院QI(Quality Indicators) について

# 次期がん対策推進基本計画に向けて小児がん拠点病院および連携病院の小児がん医療・支援の質を評価する新たな指標開発のための研究(20EA1801)

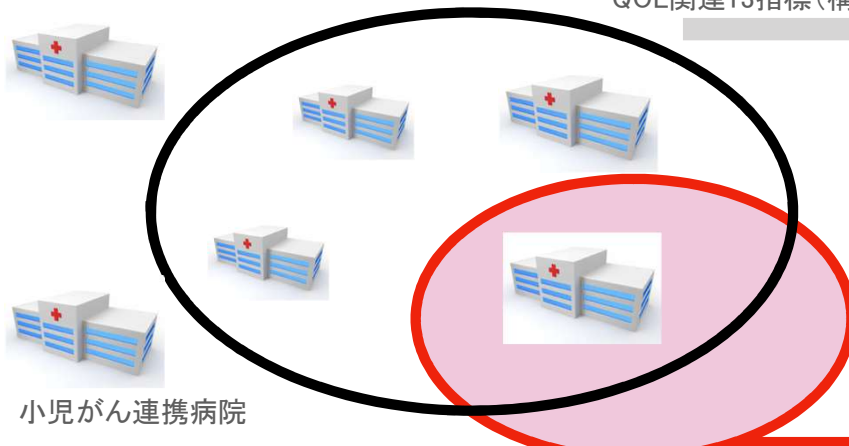
研究代表者: 国立成育医療研究センター 小児がんセンター 松本公一



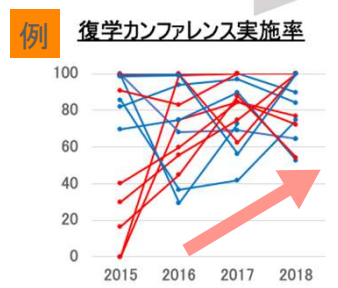
小児がん拠点病院QI

小児がん拠点病院の役割を明確化

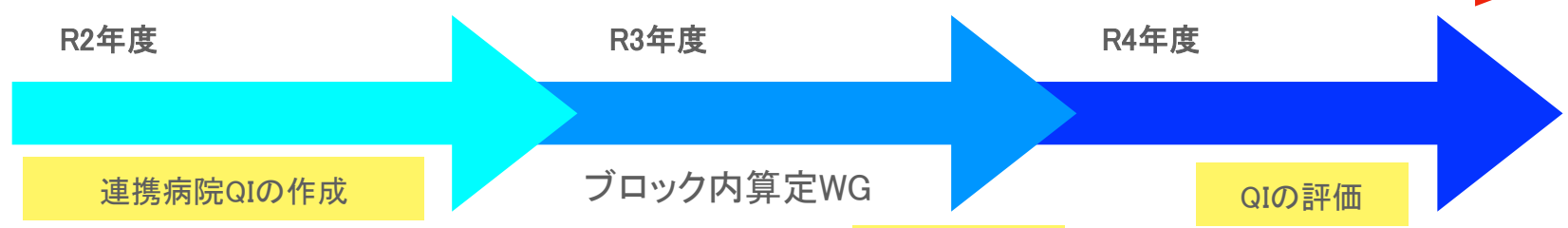
治療関連24指標(構造指標8、過程指標6、結果指標10)  
QOL関連13指標(構造指標3、過程指標7、結果指標3)



小児がん対策に求められる新たな指標  
**小児がん連携病院QI**



次期がん対策推進基本計画策定



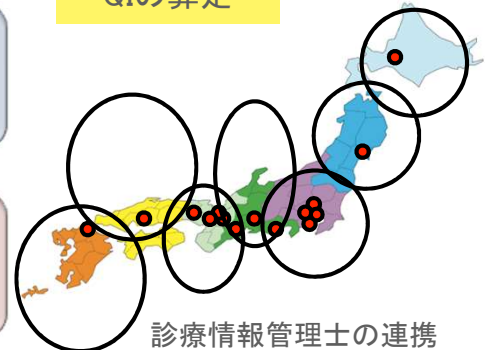
**指標検討WG**

- ・ 医師・診療情報管理士で構成
- ・ 指標項目の見直し
- ・ 指標定義の修正

**算定WG**

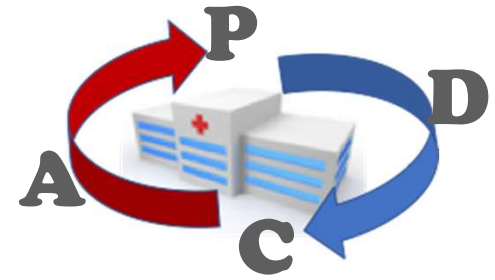
- ・ 各病院の診療情報管理士による算定体制
- ・ 定義解釈・算定方法の共有

QIの算定



診療情報管理士の連携

小児がん連携病院でのPDCAサイクル



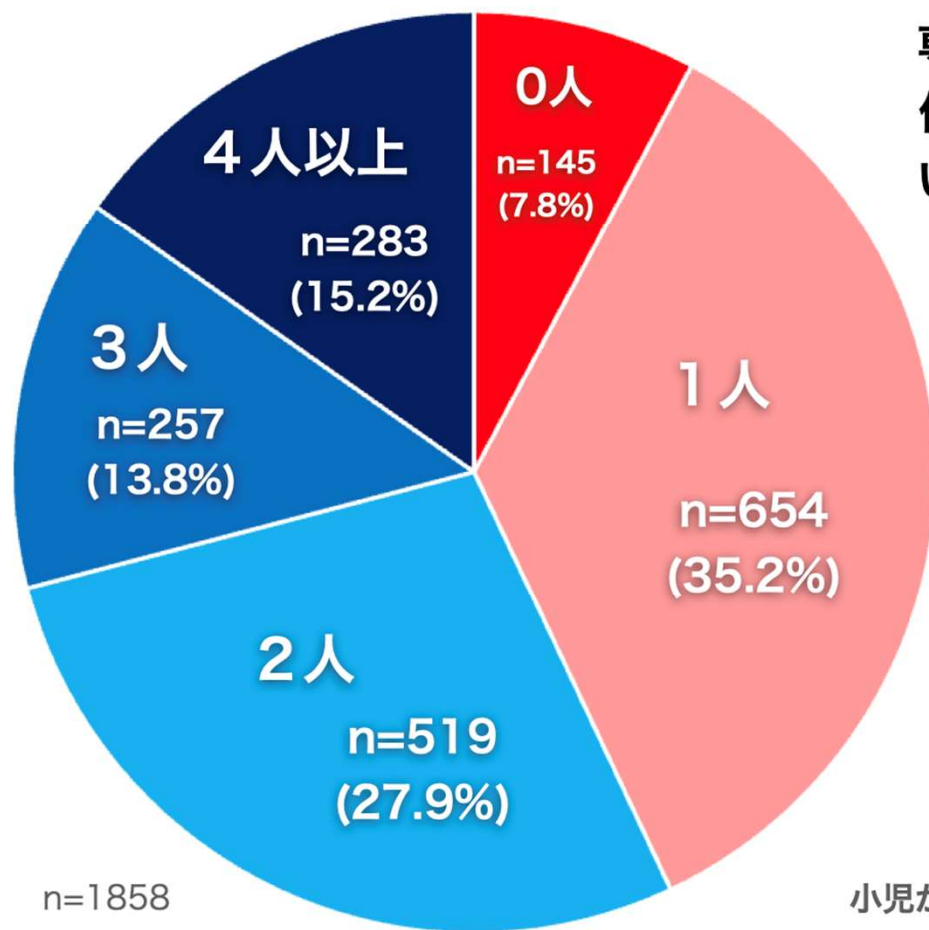
# ブロック別小児がん連携病院の概要

(2021.4.1現在)

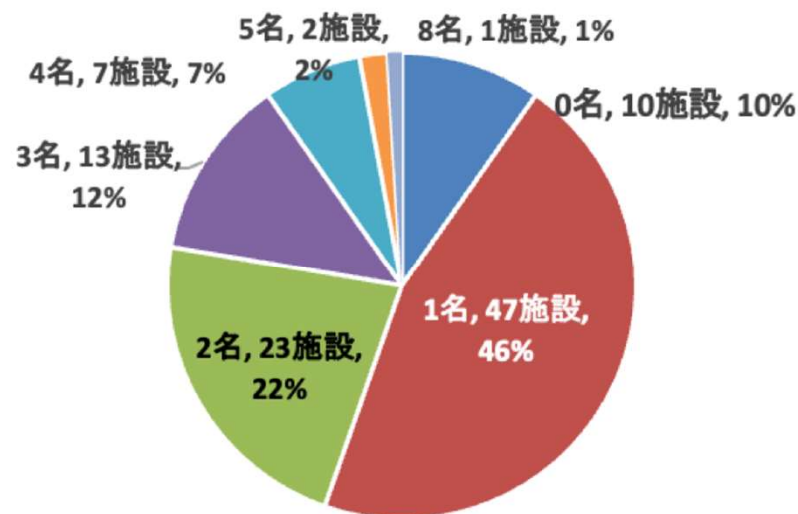
	カテゴリー1	QI提出	カテゴリー2	カテゴリー3	診療病院あたりの小児がん患者数
北海道 (15)	4	4 (100%)	1	10	16.2
東北 (9)	7	7 (100%)	1	9	18.8
関東甲信越 (41)	34	33 (97%)	5	2	21.1
東海北陸 (17)	16	16 (100%)	3	8	15.8
近畿 (32)	18	16 (88.9%)	3	12	16.5
中国四国 (16)	15	15 (100%)	1	0	12.0
九州 (16)	16	14 (87.5%)	0	6	15.2
総計 (146)	110	105 (95.5%)	14	47	17.2

\* 全国がん登録(2016) 登録数 / カテゴリー 1 病院数 + 拠点病院

# 連携病院(n=103)の小児がん患者診療数（小児がん専門医数別）

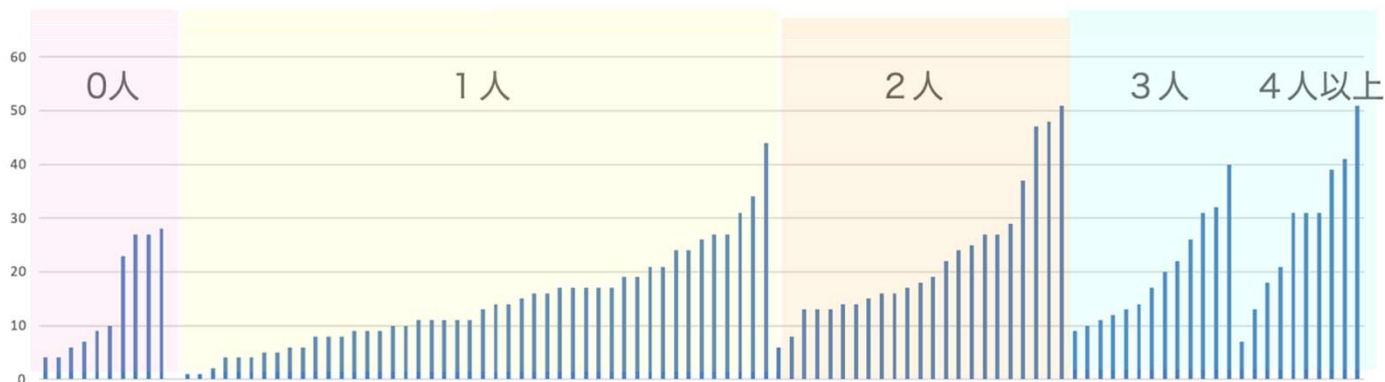


専門医の数が少ない連携病院は57施設あり、全体の56%である。そのような施設で診療されている小児がん患者数は全体の43%にもものぼる。



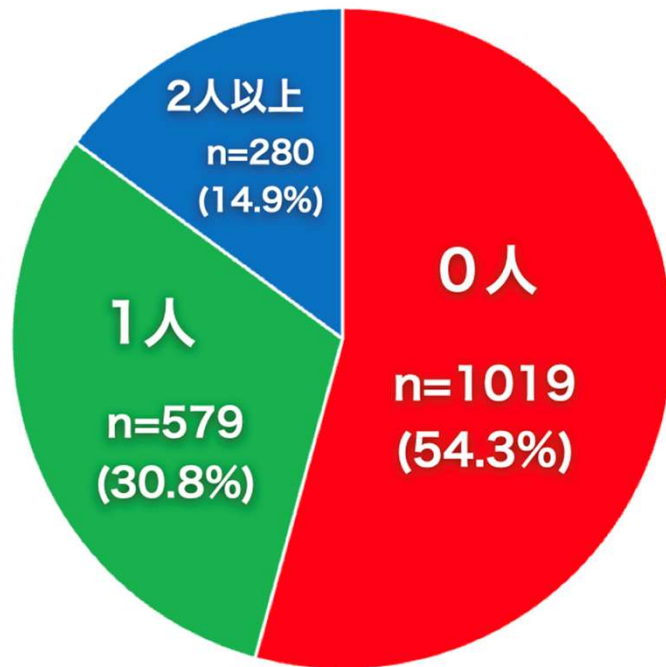
小児がん患者数（専門医数別）

専門医数が少ない連携病院でもそれなりの数の小児がんが診療されていることが問題。

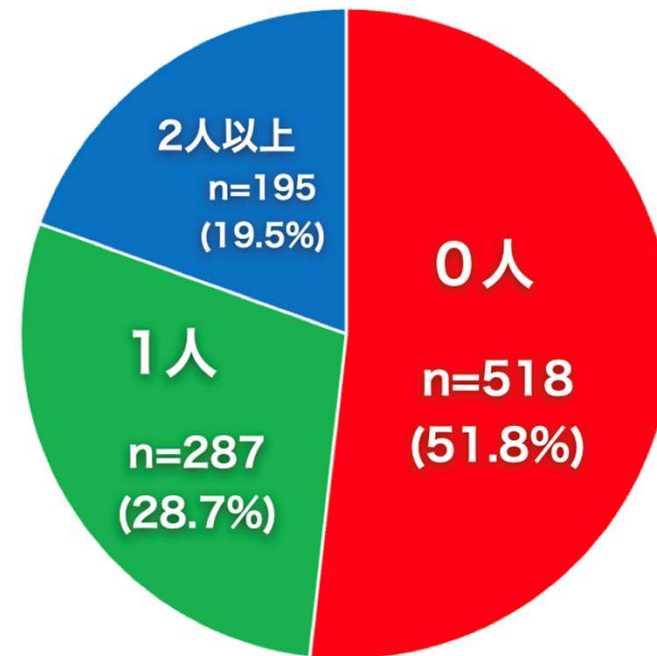


# 連携病院(n=103)の小児がん患者診療数/小児がん手術数 (小児がん認定外科医数別)

小児がん患者数



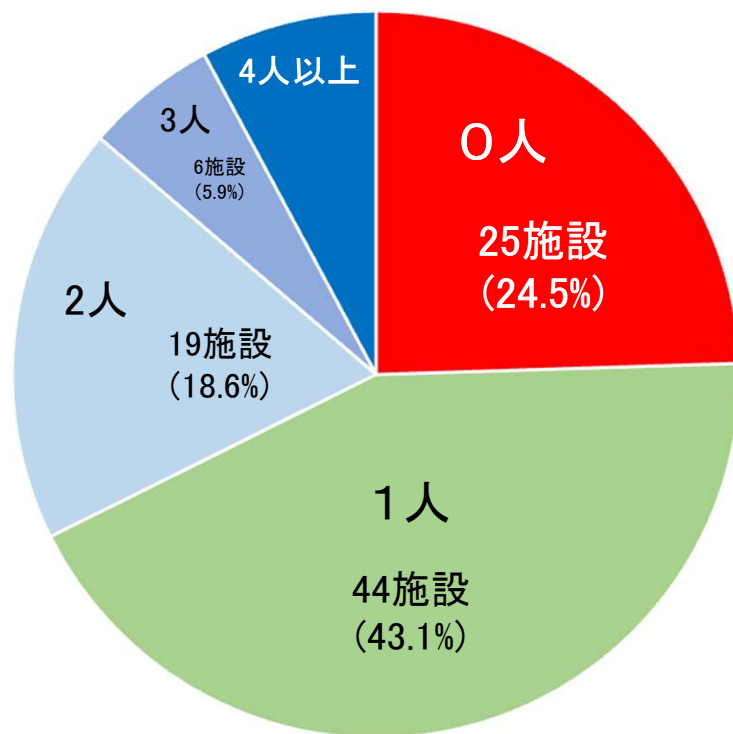
小児がん手術数



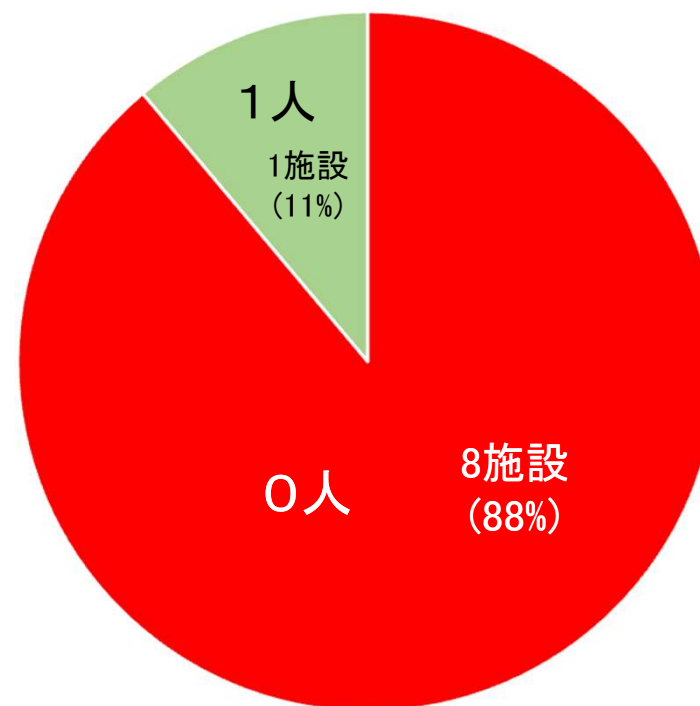
小児がん認定外科医がない連携病院は58施設(62%)あり、そのような施設で診療されている小児がん患者数は全体の54%にもものぼる。さらに、小児がん認定外科医がない施設で52%の手術が行われている。しかし、この中には、他院から応援を頼んだ手術や脳神経外科の手術が含まれている可能性があり、精査が必要である。

## 指標7 緩和医療認定医・専門医・指導医数

全体 (n=105)



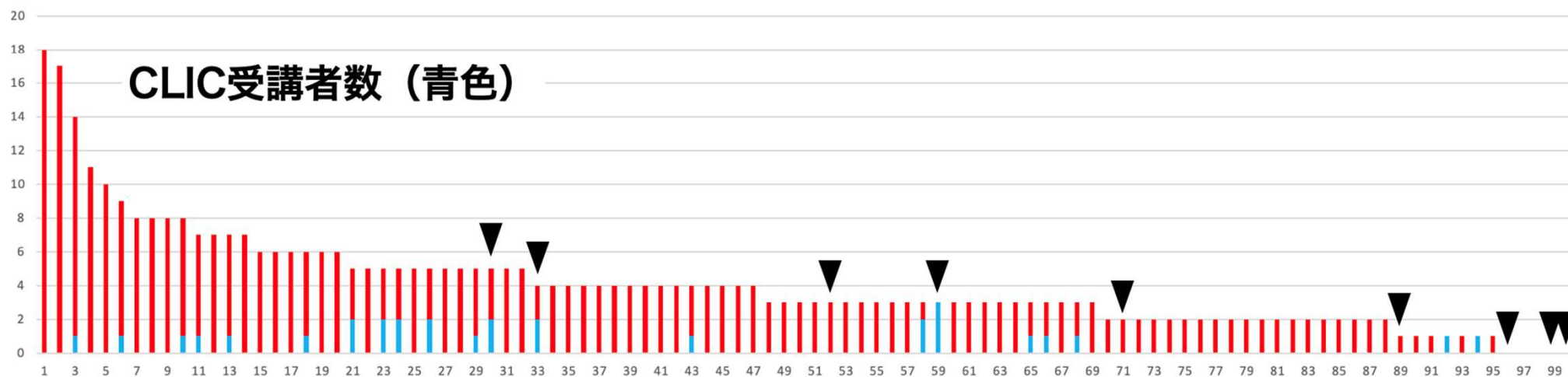
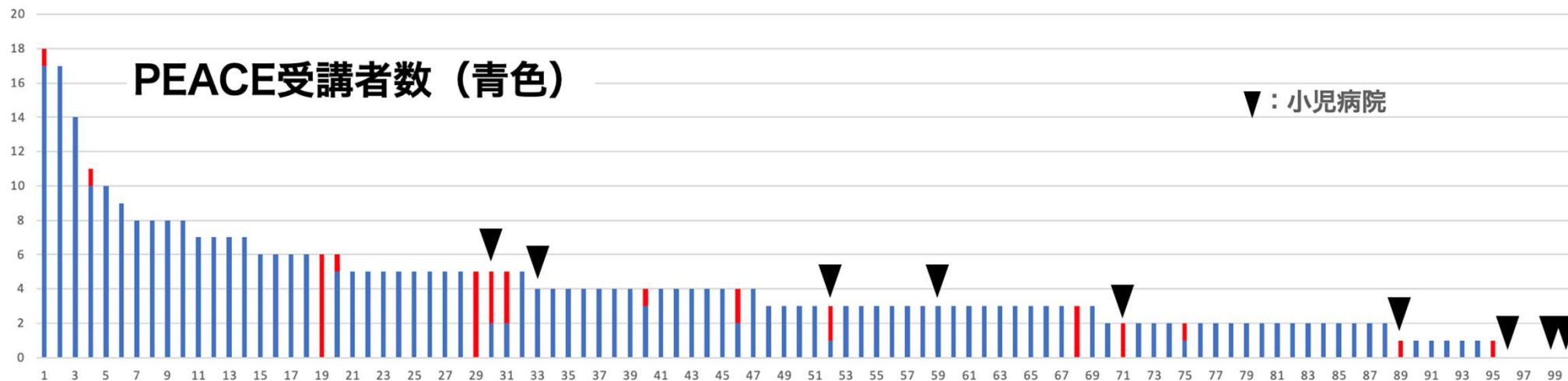
小児病院 (n=9)



緩和医療認定医・専門医・指導医が配置されていない病院は全体の3/4ある。そのうちの32%は小児施設であり、小児施設の中では9施設中8施設(88%)で配置されていない。小児施設での配置を高めるには、がんに限らず、非がんにおいても診療報酬が算定できるような仕組み作りが必要であると考えられる。

# 指標 7 連携病院における緩和ケアチーム担当医人数

(身体症状担当医および精神症状担当医)



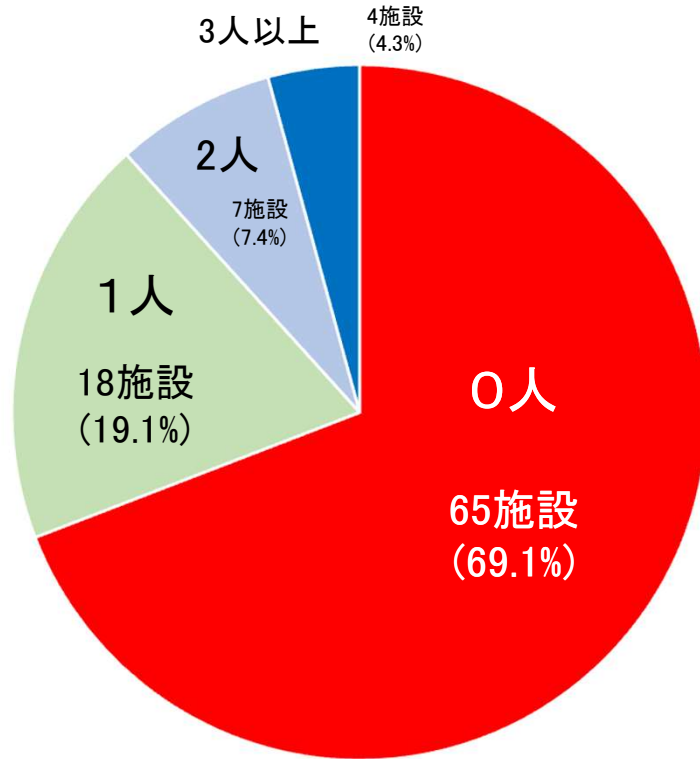
小児がん連携病院におけるPEACE受講率は、全体で91.8%(373/406)であったが、CLIC受講率は7.4%(30/406)と極めて低い。小児病院に限っても、CLIC受講率は39%(7/18)とそれほど高くはないことが問題である。おそらく、身体症状および精神症状の緩和ケアチーム担当医に限った場合、CLICを受講している治療担当医(主治医)がカウントされていないことも大きいと推察される。



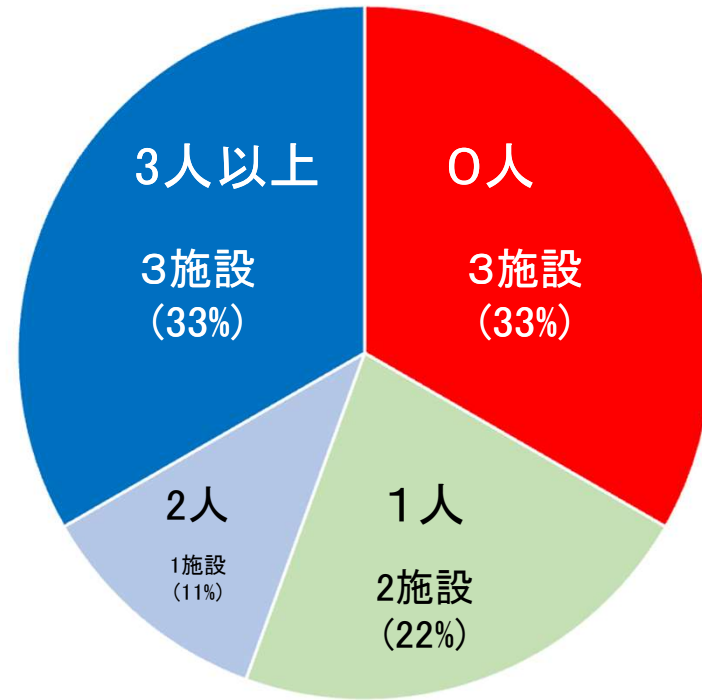
# 指標8 療養支援担当者数

(HPS・CLS・子ども療養支援士の総計)

## 大学病院・総合病院



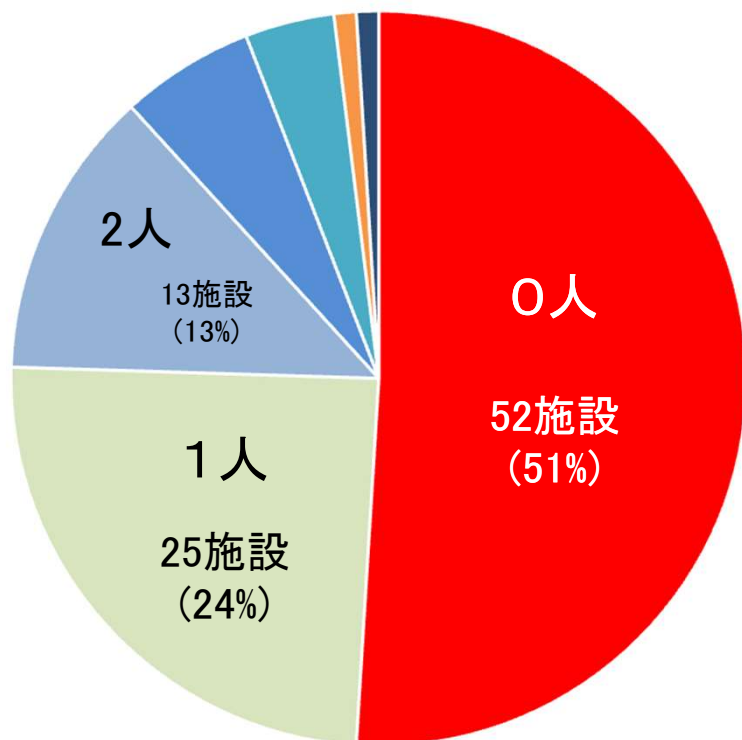
## 小児病院



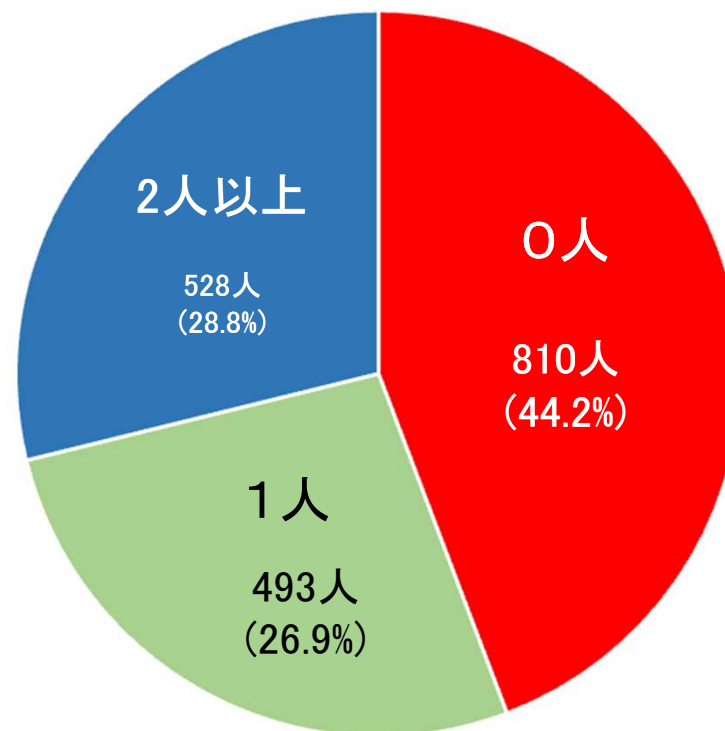
成人施設では、HPS・CLS・子ども療養支援士などの療養支援担当者が配置されていない割合が70%にも上っている。小児病院でも、1/3の施設で療養支援担当者が配置されていないが、成人施設と比較して配置が進んでいる印象がある。

## 指標9 小児がん相談員専門研修修了者数

修了者数別施設数



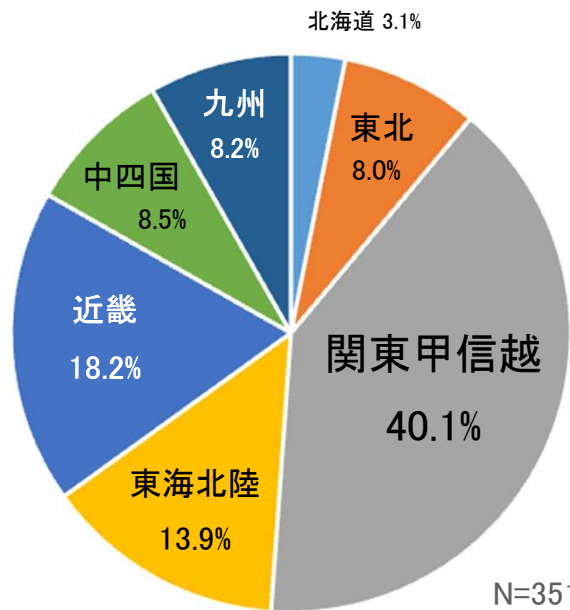
修了者数別小児がん患者数



小児がん相談員がない連携病院は52施設(51%)あり、そのような施設で診療されている小児がん患者数は全体の44%と多い。小児がん相談員研修は連携病院の選定条件には必須でないブロックが多いため、設置が進んでいないことがひとつの課題である。

# 小児がん相談員の地域分布

小児がん相談員の地域分布(全体)



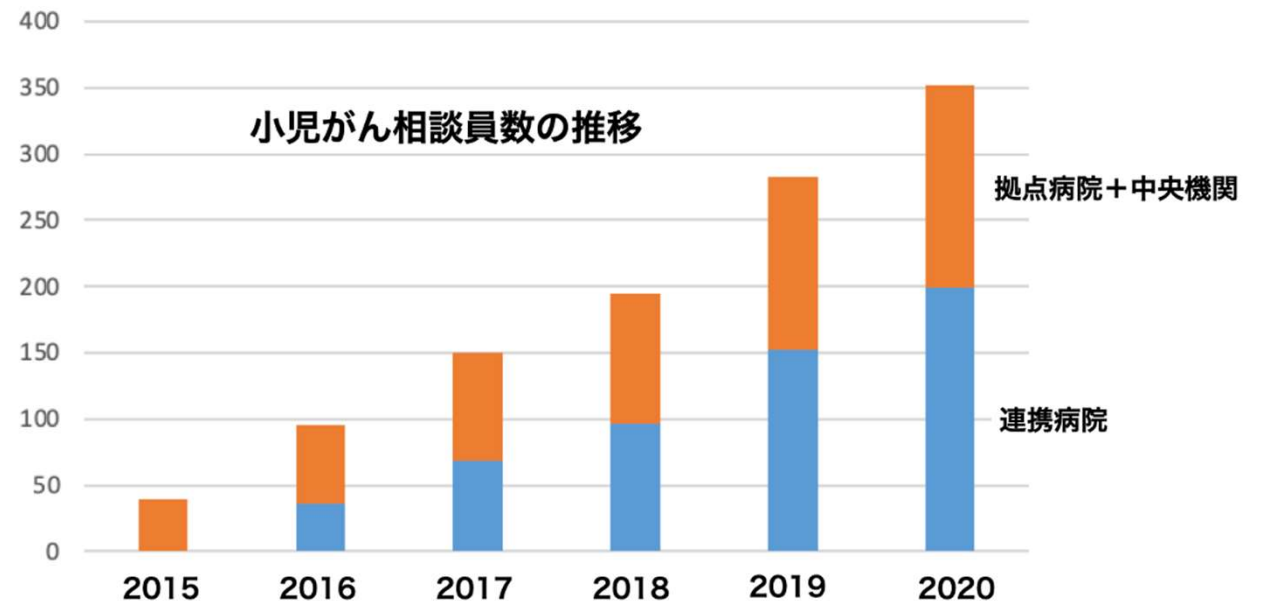
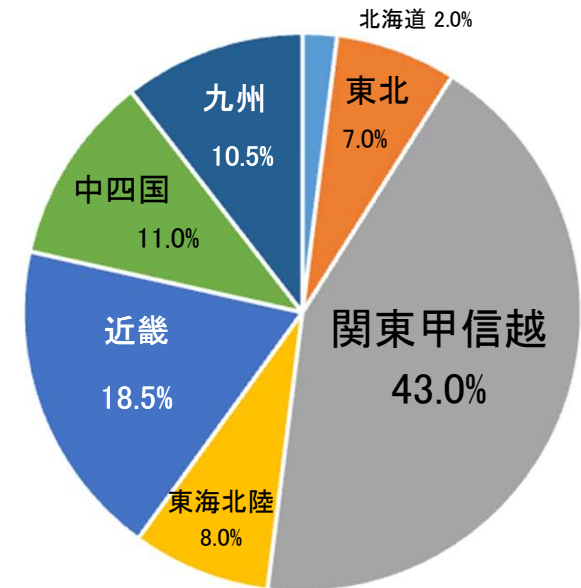
小児がん相談員の地域分布は、小児がん患者数の地域分布とほぼ同じであり、相談員数は全体的に適正配置が行われていると考えられる。

小児がん患者数  
情報公開

2014-2016 (n=2659)

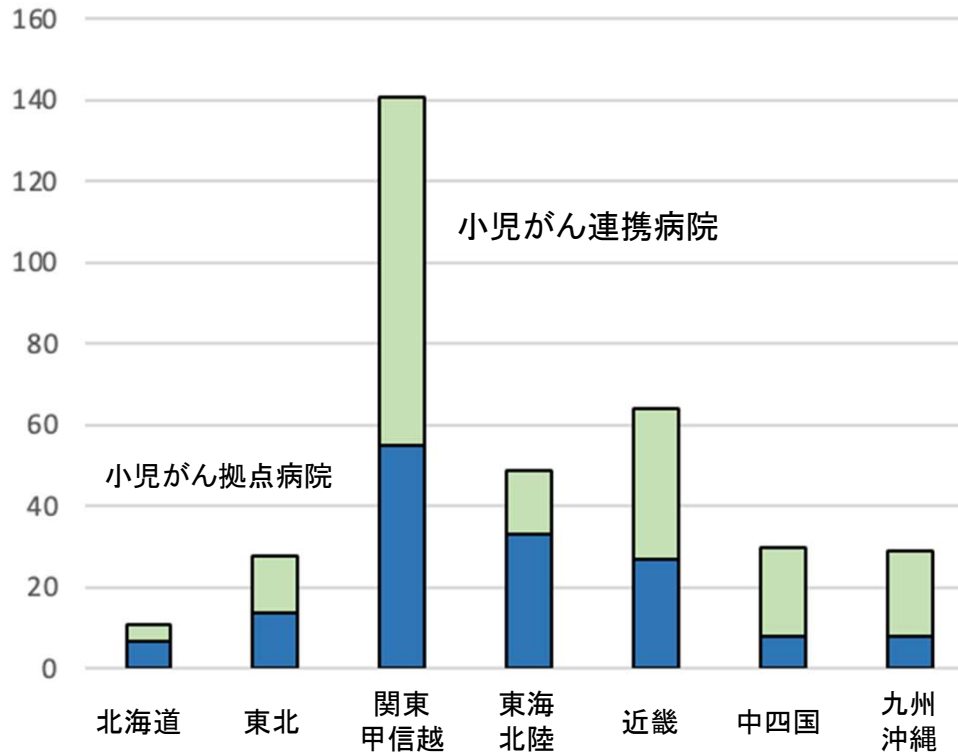


連携病院小児がん相談員の地域分布

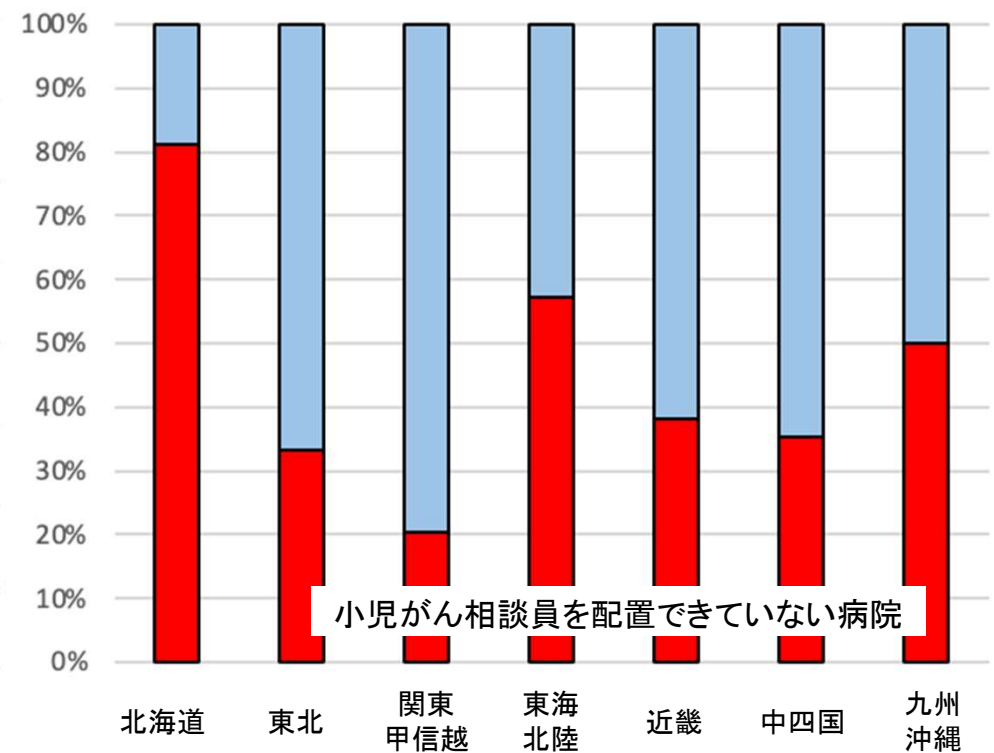


# 小児がん相談員の配置

## 小児がん相談員の拠点/連携比



## 連携病院の小児がん相談員配置



小児がん相談員の配置については地域差がある。関東甲信越ブロックは連携病院でも比較的に小児がん相談員の配置が進んでいるが、連携病院選定に必須条件となっていることと、研修会場への利便性によるものが考えられる。北海道ブロックは連携病院の類型から小児がん相談員が少ないことが推測される。東海ブロックは拠点病院には配置が多いものの、連携病院での配置が比較的に少ないことが課題かもしれない。

## 小児がん連携病院QI 構造指標のまとめ

- ・小児がん専門医の数が少ない連携病院は57施設(56%)あり、全体の43%の小児がん患者は専門医のいない施設で診療されている。
- ・小児がん認定外科医がいない連携病院は58施設(62%)あり、そういった施設で全体の52%の手術が行われているが、手術の種類に関する精査が必要である。
- ・緩和医療認定医等が配置されていない連携病院は全体の1/4ある。小児施設での配置が遅れており、CLIC研修の普及も遅れている。
- ・小児病院における療養支援担当者の配置は、成人病院と比較して進んでいた。
- ・小児がん相談員は、全体的に適正配置が行われているが、連携病院の中で、小児がん相談員のいない連携病院が52施設(51%)あり、地域差も大きい。

LCASについて

# LCAS 2021開催概要

募集期間	第1回	2021年7月12日(月) 9:00 から 7月16日(金) 15:00まで
	第2回	2021年8月23日(月) 9:00 から 8月27日(金) 15:00まで
	第3回	2021年11月1日(月) 9:00 から 11月5日(金) 15:00まで
	第4回	2021年12月13日(月) 9:00 から 12月17日(金) 15:00まで
	アドバンス研修	未定

**WEB開催**  
□ Zoomミーティング)

 **第1回** 2021年 **08**月**28**日(土) 10:00~16:00(予定)

主幹: 北海道大学病院

 **第2回** 2021年 **10**月**02**日(土) 10:00~16:00(予定)

主幹: 九州大学病院

 **第3回** 2021年 **12**月**18**日(土) 10:00~16:00(予定)

主幹: 大阪市立総合医療センター

 **第4回** 2022年 **02**月**06**日(日) 10:00~16:00(予定)

主幹: 神奈川県立こども医療センター



# LCAS 2021アドバンスについて

開催日：3月19日(土)(予定)

開催時間：前回通り午後3時間(+e-ラーニング)  
または、昼休憩をはさみ午前午後

対象：拠点病院のみに限定しない

正規参加者以外にオブザーバー参加も可能とする  
(人数の制限は必要？要検討)

参加施設には事例の提出とともに申し込みをしていただき  
前年度の「事例検討シート」を簡素化して事例収集を行う

定員：60名程度 (20チーム程度の参加を想定)

内容：講義 + 事例検討